

2026 年熊本地震を受けての川内原発に関する陳情

【陳情の趣旨】

2026 年 7 月 28 日午後 4 時 27 分、熊本県宇城市を震源とし、震度 7 を記録する大規模な地震が発生しました。我が町でも携帯電話の非常警報音が鳴り響いた後、大地がゆっさゆっさと揺れ、電線も波打ちました。薩摩川内市で震度 5 強、いちき串木野市は震度 4 の揺れでした。鹿児島県に暮らす誰もが、川内原発は大丈夫か、という大きな不安にさいなまれたことは言うまでもありません。

NHKの特集番組によると、10 年前の熊本地震が引き金となって、今回の日奈久断層を刺激したとのこと。東北大学の遠田晋次教授や広島大学の熊原康博教授らの研究チームも今回の地震メカニズムを発表していました。更には政府の地震調査推進本部（推本）の話では、今回日奈久断層帯の北側が動いて、南側は「割れ残り」として、いずれ動く可能性が高いと言っています。

上記の特集番組では、地球の歴史の中では 10 年は一瞬なのとのこと。近いうちにまた今回の地震が引き金となり、南側が動く可能性が大きく警戒を要するとの発表をしていました。川内原発の近くには、政府の推本が認定・公表した活断層の甕断層帯や市来断層帯があります。

熊本大学の田中均名誉教授は、日奈久断層の南側の八代海区間は久見崎に連続している事を貝化石で証明しています。断層がつながると大きなエネルギーの大地震も考えられます。

川内原発の中には配管が 150km～200km 張り巡らされています。その配管の中には第一次冷却水が 157 気圧、300℃という超高圧・超高温の熱湯が流れている部分もあります。圧力容器など 40 年越えの部品もあり、老朽化していても交換できない箇所もあります。福島のように核の暴走が始まりメルトダウンが起きると、人の手では抑えられません。

川内原発では、一年間で広島原爆の 2000 発分の死の灰が作られています。今後予想される大地震により原発が爆発すれば、この死の灰が吹き飛んで風下に降り注ぐ。まさに阿鼻叫喚の地獄絵図が繰り広げられます。

1997 年の阪神大震災以降日本列島は地震学上、激動期に入り、この状態は 50 年続くと言われてます。地球の歴史ではまさに 50 年も一瞬なのです。

子や孫に一粒の放射能も吸わせたくありません。そのためには漫然と原発を稼働させることは許されません。

世界で発生するマグニチュード 6 以上の地震の約 2 割は日本及びその周辺で起きています。まさに地震大国日本です。その地震大国日本で、利益優先の原発を稼働させることは自殺行為です。（九電は太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギーの出力抑制をした上で原発を優先させている現状があるのです。）今回の熊本地震はその警告ととらえるべきでしょう。

なお、J R 九州は今回の熊本地震で「新幹線の損傷箇所が 900」と発表しました。（別紙参照）九州電力も正直に震度 5 強あった川内の原発でどうだったのか公表すべきです。地域の住民は福島原発事故を忘れていません。公表は不安や心配をする住民への責務だと考えます。

なお、2016 年の熊本地震のあとには、当時の鹿児島県知事の要請「川内原子力発電所の一時停止及び点検等について（要請）」を受けて定期点検とは別に 1 号機・2 号機それぞれ 3 か月間ずつの特別点検を行っています。

以上に基づき、下記事項を陳情します。

1. 安全が確認されるまで川内原発を停止する事を九州電力に要請してください。
2. 鹿児島県知事に対しては 2016 年と同じように「九州電力に対して一時停止と、特別点検を求める事」を要請してください。

令和 8 年 8 月 27 日

陳情者 住所 いちき串木野市湊町 3 丁目 95 番地
氏名 藤 島 正 道 ほか 1 名